

山田小学校 保護者説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和8年4月17日（金）16：45 ～ 17：55
- 場 所 山田小学校 ボランティアルーム
- 参加者 保護者 17名
- 傍聴者 市議会議員 3名、一般0名

1 山田小学校再編について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

保護者1： 今年度の大崎小学校の入学者数は、片手で数えられるほどの人数であり、ここ数年も同様に非常に少ない状況が続いていると認識しています。そのような状況の中で、大崎小学校と八浜小学校の再編計画については、なくなったと聞いていますが、その経緯はどのようになっていますか。

また、本日は山田小学校の説明会であることは理解していますが、地域ごとに説明内容や進め方が異なっているように感じます。同じ市内で進めているにもかかわらず、再編の進め方が違うのはおかしいと思います。

さらに、何年も子どもが増えるように対策してきたと言われていますが、本当に状況は変わっているのでしょうか。結局、子どもが小学校に上がると、働く時間を短くしなければならなかったり、職場を変えなければならなかったりする場面が多くあります。そういった点について、具体的な対策が行われてきたのでしょうか。どのようにすれば子どもが増えるのか、本当に考えられたのか疑問に感じています。

事務局： それぞれの再編ごとにウェブや説明会でいただいた意見を持ち帰り、一つ一つ整理したうえでフィードバックしており、その進め方は学校によって変えてはおりません。

大崎小学校の今後の説明会については現在調整中ですが、この再編についても教育委員会としては進めていきたいと考えています。

統廃合によって職を変えなければならないという点について、どのような理由でそうした必要が生じるのか、もう少し詳しく教えてもらえますか。

保護者1： 統廃合によって職を変えなければならないというよりも、保育園であれば朝7時から受け入れてもらえ、夜7時まで預かってもらえますが、小学校は8時からでないといけないと受け入れてもらえず、夕方までしか預かってもらえません。そのために働くことができず、玉野市には住めないと思われる方もいると思います。こうした状況が何十年も変わっておらず、様々な対策をしてきたと言われていますが、本当にそうなのか疑問です。

事務局： 小学校の開始時間や終了時間、その前後の預かり時間に関するご質問という

ことでしょうか。

保護者 1： そうではなく、子どもやUターンして若い人が増えた他市の対策をきちんと見ているのかということです。岡山市では、朝7時から夜7時まで預かってくれますが、このような状況になる前にもっと幅広い対策ができなかったのでしょうか。

事務局： 夜7時までの預かりについては、放課後児童クラブに関する要望としてお応えしますが、現在は夜6時までの延長保育に対応しています。今回ご意見をいただきましたので、今後さまざまな意見を踏まえながら検討していきたいと考えています。

事務局： Uターンなどに関する施策についてですが、本市では在宅育児手当や給付制度、子どもの医療費助成、給食費無償化など、さまざまな施策を展開しながら子育て支援の充実を図っているところです。今年度は市の総合計画の見直しの年であり、子育てに必要な施策について、様々なご意見を踏まえて計画を策定していきます。地域のニーズを把握しながら、施策を一つずつ展開していく予定ですが、少子化対策や子育て施策は短期的に効果が見えにくいこともありますので、ご理解いただければと思います。

保護者 2： 何度か説明会に参加していますが、話し合いの焦点が統合するかしないかに偏っており、一方通行になっていると感じています。統合するのであれば、どのようなところに不安があるのかをより具体的に出し合い、皆で合意形成が図れるような話し合いにしていきたいです。たとえ統合する方向になったとしても、皆が納得できる形での統合となるよう、説明会で議論していただきたいです。

また、統合後は1学年1クラスか、2クラスに満たない程度の人数になると思います。子供たちの急な環境変化の中で、1人の先生がその人数を見ることにすごく不安を感じます。可能であれば、統合後数年間、特に高学年など多感な時期のクラスについては、1クラスに2人の先生を配置し、しっかり見ていただける環境を整えていただきたいです。

事務局： 教育委員会としても、すべての保護者の方に説明会へ参加していただき、意見をいただくことが理想と考えています。そのため、参観日の後など、参加しやすい形で実施していますが、どの地域でも反対の声の意見が大きく、賛成の方が発言しにくいという声を多く聞いています。そのような状況を踏まえ、様々な声を聞くために、Google フォームなども活用しています。我々としては、できる限り多くの意見を踏まえ、説明会を何度も開催していきたいと考えています。

事務局： 1 クラスに 2 人の教員配置してほしいとのご要望についてですが、現在小学校では県の基準で 1 クラスの上限は 35 人になっています。すべてのクラスに 2 人の教員を配置することは難しい状況ですが、可能な限り人員確保に向けて努めていきます。

保護者 3： この学校の良さを選んで通っているため、統合にはこれまで一貫して反対しています。統合ありきで計画が作られ、説明会が行われていることに対して、ずっと違和感を感じています。計画の影響で実際に人数が減ったクラスもあり、それは保護者の責任ではないと考えています。

私の知る限りでは、大崎小学校の説明会はこちら数か月間開催されていないと思いますが、山田小学校は非常にタイトなスケジュールで説明会が実施されており、スケジュールに差があることを疑問に思います。

さらに、Google フォームについても、その正確性に疑問があります。スマートフォンがあれば誰でも意見を提出できる仕組みであり、配布資料を見ると賛成意見が多いように感じますが、反映されていない意見もあります。説明会に参加しても発言ができない方がいることは理解していますが、会場で繰り返し反対意見を言うことにもやはり勇気がいられます。今日の説明を聞いていると、参加せずに Google フォームで提出された意見の方が重視されているように感じられ、嫌な気持ちになりました。

保護者が準備委員会に参加して進めていくとのことですが、私は現在と同等、あるいはそれ以上の教育環境が実現されるとは思えず、デメリットが多いと感じているため、反対しています。結局のところ、保護者が準備委員会に参加することで、保護者が責任を負うことになるのでしょうか。現在の教育水準を維持する責任を準備委員会のメンバーが負うのは、あまりにも大きすぎると感じます。準備委員会に参加した段階で納得できなければ、計画を進めることはできないと考えています。

この計画の責任の所在と、準備委員会の委員となる方の立場について教えてください。また、本当にこの計画を進めたい方は、教育委員会や準備委員会の方々とともに責任を持って進めていくという理解でよろしいのでしょうか。さらに、この統廃合が教育的に最善であると証明されているのか、それとも市の財政や施設維持の観点からやむを得ない選択なのかについても教えてください。

事務局： まず、大崎小学校とスピード感が異なる点についてのご指摘ですが、再編については、それぞれの地域や対象となる保護者の方々がどのように思われているかを説明会の場で直接伺ったうえで、今後の方向性を判断しています。実際に大崎小学校については、説明会に参加された方の大半が反対であり、さらにウェブでいただいた意見においても、多くの反対の意見がありました。

学校再編を進めるにあたって、保護者の多くが反対している場合に、教育委員会主導で強引に進めることは困難なため、大崎小学校については現状を踏まえ、PTA 会長と相談しながら進め方を検討していきます。

一方、山田小学校については、これまでの説明会やご意見の状況から、賛成の方も一定数おられるため、大崎小学校とは状況が異なります。また、反対の方にも一定の理解を得るためには、より丁寧な説明が必要であると考えているため、これまで延べ4回の説明会を実施してきました。再編の進捗状況には地域差がありますが、進みにくい地域に合わせて全体を止めることは考えておらず、あくまで適正規模・適正配置計画に基づき、計画時期に沿って進めていくというのが教育委員会の基本的な考え方です。

また、配付資料において賛成意見が多く見える点について、反対意見が十分に反映されていないのではないかというご指摘ですが、第1回および第2回ともに、すべての方のご意見を掲載しています。今回のウェブ意見については、約2か月の間に寄せられた多様な意見をまとめたものであり、最終的には全体をホームページに公表する予定です。ただし、今回いただいた意見の中には個人が特定される可能性のある内容も含まれているため、公表方法については慎重に検討しており、もう少し時間をいただきたいと考えています。また、学校再編における責任の所在についてですが、再編準備委員会は、保護者・地域住民・教職員等が参加し、具体的な内容についてご意見を聴取する場という位置付けです。例えば、校名については、準備委員会で募集方法や候補を検討し、議会の議決を経て決定されるため、最終的に議会で判断いただく案件もあります。

今回の再編計画では、一定程度財源を削減する効果があるかもしれませんが、教育委員会としては、あくまで教育的観点用最優先としており、財源を削減する目的で進める考えは全くありません。

そのうえで、再編の条件として具体的にどのようなところに疑問や不安を感じているのか、改めてお聞かせください。

保護者3： 私は現在の学校規模を選んで通わせているため、規模が大きくなることは望んでいません。この規模をそのまま保障することは難しいとは理解していますが、市全体を大規模校にするのではなく、小規模校を残すという選択肢があってもよいのではないかと考えています。現在の学校でも、一時的な時間でなく日常的な関わりはできていると思っています。子ども同士の学び合いや縦割りの活動が行われており、非常に良い教育環境が築かれていると感じています。人間関係を構築する経験も十分にできていて、本当に満足しています。具体的な条件については、現時点でははっきり答えることは難しく、単純な条件で納得できるものではないと感じています。

事務局： 計画を進めるにあたり、小規模校を残して存続させることにはなっていない

ため、持ち帰って検討することは難しいです。地域から学校がなくなることについて、地域住民や保護者の方で諸手を挙げて賛成される方は少ないと思いますが、それでも子どもたちの教育的視点で考えると、一定規模の学校が必要との判断に至り、計画を進めています。

統廃合ではなく現状維持を強く望まれる方については、計画の方向性と異なるため、理解を得ることが難しい場合もありますが、その中でもできる限りの対応を行いながら、少しずつ理解を深めていただくために説明をしていくことが我々の基本的な方針です。

反対のご意見についても重く受け止めたうえで、他の方のご意見も踏まえながら、慎重に対話を重ね、理解をいただきながら進めていきたいと考えています。

保護者4： 先ほどの Google フォームについてですが、どのような方から意見が出されているのか分かりにくいと感じました。もう少し入力項目を増やし、どのような背景を持つ方がどのような意見を持っているのか、もう少し整理していただきたいです。おそらく私自身も含め、子どもが卒業した後であればどちらでもよいと考える方はすごく多いと思います。地域としては学校があることを望んでいると思いますが、自分の子どもが通っている状況で、来年や再来年から統合されると言われると悩んでしまいます。一方で、統合に賛成されている方の中には、統合時にはすでにお子さんが在籍していない方もおられると思います。

事務局： 今回、Google フォームにご回答いただいた方には、お住まいの地域、在籍している学校・園、学年などを入力の上で回答をいただいています。一部は卒業予定の方からのご意見もありますが、ほとんどは実際に再編時に在籍する児童の保護者が、賛成・反対それぞれの意見を述べている状況です。どこまで詳細に公表するべきかの線引きが難しいところもありますので、個別の情報まで踏み込んで公表することは適切ではないと考えています。

保護者4： 我々が知りたいというわけではなく、より良い判断につながる形で整理してほしいという趣旨です。

また、前回質問した通学路の件についてですが、山田と胸上をつなぐ箇所の横断歩道が危険であるとお伝えしましたが、意図が十分に伝わっておらず、現在は工事中のため車が通っていませんが、完了後は車が通行するようになります。それが危険であるという趣旨でお伝えしましたので、その点については訂正をお願いしたいです。改めて、この内容については次回以降にご回答をお願いします。

事務局： 当該箇所は土木課の所管であり、車線や橋梁の一部に不具合があったため工

事を行っていると聞いています。内容については確認のうえ、改めて回答します。

保護者 5 : 山田小学校と胸上小学校の 2 校について、防災上の観点から伺います。両校とも津波浸水想定区域および高潮浸水想定区域に該当しますか。

事務局 : 現在、県において津波および高潮の浸水区域の見直しが行われたところであり、その内容を反映した改訂はまだ完了していませんが、現在の状況を申し上げますと、山田小学校は高潮の浸水区域に該当し、胸上小学校は津波および高潮の浸水区域に該当しています。

保護者 5 : 以前、案の段階でデータを示していただいた際と内容が変わっているのでしょうか。そのときの津波の予測は 0 メートルでした。

事務局 : 県の見直しが最近行われたばかりであり、その内容がまだ資料に反映できていない状況です。

保護者 5 : 各校のデータは非常に重要だと考えていたため、案の段階では載せていたのに、なぜ削除されたのかと疑問に感じました。

事務局 : 計画案の段階から、山田小学校は高潮浸水区域、浸水深（最大規模）、胸上小学校は津波および高潮の浸水区域として示している認識です。

保護者 5 : 私の持っている資料では、山田小学校は津波・高潮ともに 0m と記載されており、胸上小学校については津波 0.5～1m、高潮 1～3m と記載されています。防災の観点から見ると、山田小学校の方が安心して通わせられるのではないかと考えています。人間力や学力、教育の質の向上というのももちろん大切ですが、まずは子どもを安心して送り出せることが大前提であり、安全面をどのように考えているのかお聞きしたいです。

事務局 : 拠点校の選定にあたっては、防災面も非常に重要な視点であると認識していますが、学校規模や児童の分布、通学経路なども踏まえて総合的に判断する必要があります。

地震発生から津波到達まで約 2 時間程度の時間があると言われており、日頃からそういった地震発生時の避難訓練を徹底した上で、児童の安全安心を確保するという条件のもと、拠点校の選定を行っています。いずれにしても、子どもたちの命を守ることが最優先であり、学校現場と教育委員会が連携し、こういった取り組みをしているのかも把握しながら安全確保に努めていきたいと考えております。

保護者 5 : 児童数や適正配置の観点から胸上小学校が選定されたのだと思いますが、何よりも子どもの命の安全が最優先であるため、その点については重く受け止めていただきたいです。